

2020年第4回 外洋常任委員会 議事録

開催日；2020年12月4日（金）18:00～19:30

会議の方法；WEB会議（Zoom）

出席者；（理事）

馬場益弘 副会長、中澤信夫 副会長、大村雅一 常務理事、平松隆 理事、
望月宣武 理事、菊池邦仁 理事、新田肇 理事、岩瀬喜貞 理事、安田大助 理事、
宇都光伸 理事

（委員会関係）

八木達郎 外洋計測委員長、日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長、
船澤泰隆 国際委員会外洋小委員会委員長、金子純代 キールボート強化委員会委員長、
服部好彦 ジャパンカップ委員会委員長、作田智恵子 艇登録WG長、坂谷定生 参与
鈴木一行 国際委員会外洋小委員会委員、
鈴木保夫 事務局長
寺澤寿一 JSAF 事務局長

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で18:00より、議事録確認者に服部好彦ジャパンカップ委員会委員長を指名し、馬場副会長の挨拶で開始した。

馬場：皆さんと直接会って議論し忘年会をして酒を酌み交わしたかったが、コロナが収束してから皆さんと会いたいと思います。
今日もたくさんの議題があるので、話を短くして進めてもらいたい。

1、セールナンバー発行規則

作田WG長より以下の説明がなされた。

前回の外洋常任委員会の承認を受けてセールナンバー発行規則（案）を作成し、皆さんに送った。

次の理事会の協議事項となり事前質問があったので回答を作成し皆さんに配布した。現行規則とは暫く並行して運用する。

今後現行規則と比較してガイドラインを作成していく。

今回の規則の主旨は、JSAFに加入しなくてもセールナンバーを発行できるようにしたことである。運用については規則にしないでガイドラインとして外洋常任委員会で決めていきたい。艇登録の事務局を設けて登録事務を行っていく。

皆さんの協力を得てメリットを考えていきたい。

以上の説明に対し、以下の質問及び討議がなされた。

菊地：簡易レーティングを提供することは可能か？

大村：今後外洋常任委員会で詰めたい。

八木：年 3,000 円を払わなかった人の扱いは考えているか？

作田：一度登録したきりだと、過去の会友艇登録と同じ結果になるので、毎年 3,000 円を徴収することにした。JSAF の HP に UP して登録艇との識別をする。

八木氏から提案のあったナンバーを次艇に再使用する際の案については現行の規則を検討する。

平松：会員登録とは別だが、手間が掛からないように運営してもらいたい。

新田：諸外国ではどうなっているのか？

大村：諸外国でも日本と同じように一連のセールナンバーを発行している。

鈴木（保）：U S セーリングにおいては、メンバーとメンバー以外へのセールナンバーの発行に差を設けている。例えば、ぞろ目等人気のあるナンバーの発行料金を高くする等の差を付けている。

2、2024 オリンピック、2021 世界選手権等について

鈴木一行委員より以下の説明がなされた。

2024 年のパリオリンピックのミックスWHはほぼ確定した。

2021 年 10 月にマルタで L30 を使った男女混合ダブルハンド世界選手権の開催することがほぼ決まった。

エントリー枠は 20 か国となり日本での選考レースが必要となる。

2020 年は沖縄レースと合わせて選考レースの開催することを計画したが、コロナで中止となった。

来年に向けて一から考える必要があり、2021 年春の連休に和歌山で選考レースを開催したい。

世界的には、パリオリンピックでの種目に決まったことで一気に盛り上がっている。

資料の通り国際外洋ダブルハンド協会は 1,600 人が登録している。

今後の選考レースについて、定期的にダブルハンドレースを開催することと、コーは和歌山～蒲郡で良いか意見を聞きたい。

日本が出られるかは年末に決まる。

定期的に開催する選考レースの実行委員長に馬場副会長に引き受けて頂いた。

馬場副会長：実行委員長を引き受けたが、選考レースは以下のように考える。

- ・パールレース、沖縄レース、初島ダブルハンドレース、小笠原レースにWHクラス

を設けてもらう。

- ・再来年の世界選手権に向けてポイントを付け、来年5月にリアルな大会をしたい。

平松：アジアの選考レースは何時どこで開催されるか？

鈴木（一）：7月頃にL30でヨーロッパにおいて開催されると予測する。

馬場副会長：白石氏が参加しているバンデグロブがBSで放送されているので盛り上がるきっかけにしたい。

中国、韓国が出てくると思うので、世界選手権の前にアジアの選考レースがあると考ええる。

鈴木（一）：4月29日～5月5日の間の3日間で、和歌山～蒲郡での開催を考えている。

坂谷：東海としてフィニッシュを取ることは了解した。

今回はコロナ禍なのでレースを1本で選考するのはやむを得ないが、本来複数のレースの総合で選出すべきで、3本程度がいいと考える。今後のために定期的な、例えば「鹿児島～東海」のような300マイル以上の新しいコースでのレースを立ち上げることも必要だ。

鈴木（一）国際ダブルハンド協会に協力したい。ワールドセーリングに加盟していないが、オンブリーズ等に紹介することはできる。

以上の計画について出席者全員が賛成した。

3、World Sailing 総会等関係情報

望月：理事会に資料を出しているが、総会選挙で会長、副会長が替わり、大谷氏がカウンセルメンバーに当選した。

4、東京大学との共同事業の発表について

大村：マイクロプラスチックは昨年の小笠原レースから、加山プロジェクトの中で海洋大学と進めてきた。パンフレットを作成したので、事務局に連絡をもらえば配布する。引き続き海洋プラスチックの問題は進めていく。

中澤：非常に良いパンフレットである。サステナビリティの観点からも外洋でお手伝いができたと思う。

鈴木（一）：各加盟団体長会議でパンフレットの希望を取る仕組みを作ってもらいたい。海洋大学の出前講習も可能である。

大村：1月の団体長会議で案内をしてそこをスタートとしたい。

ボートショーのバーチャルで活用してもらうことも考える。

5、艇・クルー・マッチング、法制度、安全関係等の調査・検討チームの設

置について

大村：既存の委員会の他に検討チームを設置したい。

舵の掲示板がなくなるので、艇とクルーのマッチングシステム検討チーム、外洋ダブルハンドチーム、安全関係と法制度はレースとは別の課題整理のチームの希望者を募る。

6、第14回全国外洋加盟団体長会議（1月24日）企画案

大村：団体長会議は、大井町のきゅりあんでハイブリッドで開催する。

外洋常任委員会は1月14日に開催する。

近日中に案内をする。

7、各専門委員会・小委員会からの報告

大村：委員長は欠席だが、レースマネジメント委員会から更新講習会の案内資料が出ている。

日下部ルール委員会外洋規則小委員長より、外洋レースに関する変更箇所、ルールブック、アプリの販売、講習会について、とルールの変更点について資料に基づき以下の説明がなされた。

外洋レースに関する主な変更箇所は、スタート、フィニッシュの横切り条件を「艇体の一部」に変更、ごみの処分、セールナンバーの「セール対照色」識別基準雄厳格化である。

これに対して以下の質疑があった。

大村：ゴミの処分はNOR及びSIで変更することができなくなった。

セールの対照色の整理が必要と考える。

鈴木（一）：セールを作る時のガイドラインが必要と考える。

八木：透けているセールは見えるので、対照色を整理してもらいたい。スタートではバウスプリットは対象外になるのでは？

日下部：バウスプリットはハルの一部ではない。

大村：ERSのハルの長さとしている。

8、各地域の報告（レース、イベント開催状況、コロナ対策等含む）

菊池：いわきではコロナの影響はあまり無い。漁港に数艇ありそこから出ている状況。レースはやっていない。

新田：関東4団体では後半からレースを行ったが、コロナ感染症の対処では問題があるとの指摘があった。

三崎では来年の小笠原レースを中止にしたが、それ以外は開催を検討している。
岩瀬：行政が関わっているハーバーではレースが自粛となっている。

宇都：南九州では8月末にウイズコロナレースをやって以来、毎月クラブレースを行っている。

来年は、三島レース、種子島レースも自粛の状況、島はコロナが発生していないのナーバスになっている。

九州地域ではセーリング、艇ないでの感染報告はない。他でヨット内で感染した事例があれば教えてもらいたい。

9、12月5日の理事会について

大村常務より理事会の議題の説明がなされた。

主な議題は、ガバナンスコード、定期表彰、特別加盟団体の加入、ジャッジ・アンパイアのコロナ過における経験不足について等。

平松理事よりランカウイレースでの優秀競技者表彰について疑問の意見が出された。

・リゾートのレースでIRCクラスは3艇しか出ていない。他のクラスでも4艇である。レベルの低いレースと考えるが如何か？

これに対して以下の意見が出された。

- ・ランカウイレースはWSに登録されているインターナショナルレースなので対象となると認識している。
- ・JSAFがレースのレベルを判断すべきではないと思う。
- ・JSAFにおける国際レースの形式的な基準は満たされている。必要があれば明日の理事会で議論して頂きたい。

大村：1月の代表者会議はWEBとの併用となり、新年会は中止。

翌日は、外洋団体長会議となる。

10、その他

馬場：ニューヨークヨットクラブからアメリカズカップのミーティング参加の招待状が届いた、会長の代わりにアメリカズカップ委員会の服部委員長がZOOMで参加する。

中澤：ディンギーではコロナ対策をして行っている。レポートも出ているので参考にさせて頂きたい。

ニューヨークヨットクラブのインビテショナルカップは11月20日まで一般公募をしていたが、他に参加者がなかったのでサマーガールでエントリーした。

金子：毎年インカレの後に学生がヨットから離れているが、3月の大学の対抗マッチレ

ースに 11 チームがエントリーしている。

作田：外洋湘南の会員が乗船証明による小型船舶操縦免許の更新をした。

規程ではレースのみとなっているが、かつて東海会員が取得した時の報告では回航も経歴になるとのことだった。今回も同じように JSAF が認めれば回航も含まれるということが実証された。皆さんもトライして頂きたい。

大村：1 月 14 日の外洋常任委員会では、セールナンバー規則と、チームの構成等を審議したい。

最後に中澤副会長の以下の挨拶で閉会となった。

- ・コロナ禍の中でのリモート会議が何時まで続くのか分からないが、Web で全国の皆さんと良い会議ができることを期待し、コロナ過でも楽しくレースをしたい。

議事録確認 服部 好彦